

令和元年6月27日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02013

研究課題名(和文) アンデス諸国における21世紀先住民運動をめぐる思想史的研究

研究課題名(英文) Un estudio historico-ideologico sobre los movimientos indigenistas de los paises andinos en el siglo XXI

研究代表者

後藤 雄介 (Goto, Yusuke)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：60296374

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は二一世紀アンデス諸国における先住民主義運動とその文化的足跡を思想史的観点から解釈することを目的としている。具体的には、2016年には「第1回ラテンアメリカ文学理論・批評・歴史国際会議」に出席してペルーの作家ホセ＝マリア・アルゲダスの思想について報告し、その成果は2018年、同国際会議の報告集に掲載された。次いで2017年には隣国エクアドルへの調査旅行を実施してペルーとの比較事例研究をおこない、その成果は所属大学紀要に論文として掲載された。論文のねらいは、同国の先住民主義小説の古典であるホルヘ・イカサの『ワシプンゴ』が、二一世紀においていかに再解釈されているかを明らかにすることにある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本におけるアンデス諸国の先住民問題は、社会運動の側面に注目し、おもに政治経済的な観点からの研究が試みられてきた。その意味で、思想文化史的な観点から分析した本研究には空白部分を補う価値があると考えられる。また、思想文化史的観点から同地域を横断的にとらえる研究は同地域においても手薄で、その点でもペルーとエクアドルの比較研究を試みた本研究には一定の意義があると思われる。今後の課題としては、アンデス諸国のみならずラテンアメリカ諸国全般で独立から二百周年を迎えることになるが、二百周年を機に各国のナショナリズムの言説がいかなる形で先住民の存在を包摂することになるか、今後はその比較研究を試みたい。

研究成果の概要(英文)：Este estudio tiene como objeto interpretar los movimientos indigenistas y sus huellas culturales en el siglo XXI, desde el punto de vista no socio-politico sino mas bien historico-ideologico. Mas concretamente, en 2016 analice el pensamiento del indigenista peruano Jose Maria Arguedas, asistiendo al "I Congreso Internacional de Teorias, Critica e Historias Literarias Latinoamericanas", organizado por CELACP en Lima. El fruto de este analisis salio como articulo en 2018 en Actas de dicho Congreso Internacional. Acto seguido, en 2017 hice un viaje de investigacion sobre el tema al pais vecino Ecuador para comparar el caso peruano con el ecuatoriano, cuyo resultado fue publicado en una revista japonesa titulado "Resucitando a Andres Chilibingua". Andres Chilibingua es el nombre del protagonista no solamente de la novela clasica ecuatoriana Huasipungo de Jorge Icaza sino tambien de la mas reciente escrita por Carlos Arcos Cabrera como homenaje a Huasipungo.

研究分野：ラテンアメリカ思想文化史

キーワード：先住民 インディヘニスモ 混血 アルゲダス アンデス ペルー エクアドル ポリビア

1. 研究開始当初の背景

報告者は、かねてよりペルーの先住民主義の思想文化史的な研究をしてきたが、これをアンデス諸国(ペルー・エクアドル・ボリビア)へ拡張しての比較研究を試みたいと考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、グローバル化の進行する二一世紀に入って注目されているアンデス諸国(ペルー・エクアドル・ボリビア)の先住民運動の特徴・活性化の度合いのちがいを、政治学的ではなく、各国における先住民の復権をめぐる思想・運動潮流の総称であるインディヘニスム(indigenismo)の歴史的な文脈に置き、相互に比較することで思想的に解明するところにある。現時点の仮説としては、一九世紀末～二〇世紀初頭に誕生したインディヘニスムは、先住民を対象としつつも、実際には先住民と支配的白人層およびその他のエスニシティが織りなす「混血」の位置づけ・意味づけと深くかかわっており、混血の概念を通じて構想される国民形成意識の違いが各国における先住民運動に対するまなざしの差異を生み出しているのではないかと考える。

3. 研究の方法

すでに実施してきたペルーの研究においては、作家というよりも二〇世紀を代表する知識人であるホセ＝マリア・アルゲダス(José María Arguedas, 1911-1969)の思想を中心に、彼の作品における先住民観の変遷、および彼の作品(代表作に『深い川』[*Los ríos profundos*, 1958]、『すべての血』[*Todas las sangres*, 1964]、『上の狐と下の狐』[*El zorro de arriba y el zorro de abajo*, 1971 = 遺作]など)を二一世紀の文脈で読み直すことの意味合いについて探ってきた。この方法をエクアドル・ボリビアに敷衍し、両国における代表的な知識人、たとえばエクアドルにおいてはホルヘ・イカサ(Jorge Icaza, 1906-1978)、ボリビアにおいてはアルシデス・アルゲダス(Alcides Arguedas, 1879-1946)等の再読・再解釈することをおこなっていく。

4. 研究成果

2016年には、CELACP(Centor de Estudios Literarios Antonio Cornejo Polar = アントニオ・コルネホ = ポラル文芸研究センター)主催の「第1回ラテンアメリカ文学理論・批評・歴史国際会議」(I Congreso Internacional de Teoría, Crítica e Historias Literarias Latinoamericanas: Celebrando la Contribución de Antonio Cornejo Polar)に出席してペルーの作家アルゲダスの思想について報告し、その成果は2018年、同国際会議の報告集に掲載された。次いで2017年には隣国エクアドルへの調査旅行を実施してペルーとの比較事例研究をおこない、その成果は所属大学紀要に論文として掲載された。論文のねらいは、同国の先住民主義小説の古典であるホルヘ・イカサの『ワシプンゴ』(*Huasipungo*, 1934)が、二一世紀においていかに再解釈されているかを明らかにするところにあった。なお、ボリビアについては残念ながら今回は調査を拡げることができなかった。今後の課題としたい。

日本におけるアンデス諸国の先住民問題は、社会運動の側面に注目し、おもに政治経済的な観点からの研究が試みられてきた(たとえば、新木秀和『先住民運動と多民族国家 エクアドルの事例研究を中心に』御茶ノ水書房、2013年、宮地隆廣『解釈する民族運動 構成主義によるボリビアとエクアドルの比較分析』東京大学出版会、2013年、岡田勇『資源国家と民主主義 ラテンアメリカの挑戦』名古屋大学出版会、2016年など)。その意味で、思想文化史的な観点から分析した本研究には空白部分を補う価値があると考えられる。また、思想文化史的観点から同地域を横断的にとらえる研究は同地域においても手薄で、その点でもペルーとエクアドルの比較研究を試みた本研究には一定の意義があると思われる。今後の課題としては、アンデス諸国のみならずラテンアメリカ諸国全般で独立から二百周年を迎えることになるが、二百周年を機に各国のナショナリズムの言説がいかなる形で先住民の存在を包摂することになるか、今後はその比較研究を試みたい。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計1件)

後藤雄介「よみがえるアンドレス・チリキンガ—アンデス地域における文学メディアによる社会的記憶の回復と再構築」『学術研究(人文社会・社会科学編)』(早稲田大学教育・総合科学学術院)67号、2019年、179-187ページ【査読なし】

[学会発表](計1件)

Goto, Yusuke, "La vuelta a *Todas las sangres* para soltar a los "Zorros" hacia el siglo XXI: una relectura de las dos últimas novelas de José María Arguedas," I Congreso Internacional de Teoría, Crítica e Historias Literarias Latinoamericanas: Celebrando la Contribución de Antonio Cornejo Polar. Lima, Casa de la Literatura Peruana, 7 de julio de 2016. 【査読なし】

〔図書〕(計1件)

Goto, Yusuke, "La vuelta a *Todas las sangres* para soltar a los "Zorros" hacia el siglo XXI: una relectura de las dos últimas novelas de José María Arguedas," Dorian Espezúa Salomón, et al., eds. *Actas del I Congreso Internacional de Teoría, Crítica e Historias Literarias Latinoamericanas: Celebrando la Contribución de Antonio Cornejo Polar (Lima, 5-8 de julio de 2016)*. Lima: CELACP/ Latinoamericana Editores, 2018, pp.275-281. 【査読あり】

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者 なし

研究分担者氏名：
ローマ字氏名：
所属研究機関名：
部局名：
職名：
研究者番号(8桁)：

(2)研究協力者 なし

研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。